



りさ
戸叶 莉彩さん

●旗川小学校6年

夢は笑顔の美容師

私の夢は、美容師になることです。私の家は、昔、美容室でした。美容師だった祖母が亡くなり、今は美容室を閉めたままです。家族からすてきな美容師だった祖母の話を聞き、美容師になる夢をもつようになりました。

私は、髪をとかしたり、結んだりすることが好きです。友だちの髪を結ぶこともあります。「ありがとう、すてき」と、喜んでもらえるとうれしくなります。みんなを笑顔にできる美容師は、あこがれの仕事です。髪がきれいになって喜ぶお客さんの笑顔が見たいです。夢に近づくために、私は笑顔でいることを心がけています。そして、天国の祖母のような美容師になりたいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる © 佐野市

市長からの メッセージ



暦の上では立春を迎えますが、まだまだ厳しい寒さが続いています。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

今年も元旦から恒例の観光物産会館初売りに臨みました。スタッフの皆さんには、笑顔とおもてなしの心での接客をお願いしました。

昨年「全国山城サミットin佐野」の会場となった唐澤山神社では、その効果もあり元旦から大渋滞で、参拝客が例年と比べ3割増加したそうです。私も3日に参拝をし、市民の皆さんのご多幸と本市のさらなる飛躍を願ってまいりました。

先月6日には本市主催の新年祝賀会・表彰式を開催し、市内各界代表者など約1千人の方々と新しい年の門出を祝いました。今年の表彰式は、長年ご尽力いただいた町会長や附属機関の委員など132人に対し、功労表彰・德行表彰を行いました。受章者の皆さん、今後とも市政運営にご協力をお願いします。

7日には、成人式が市内3カ所で開催され、約1200人の方が成人式を迎えられました。今年の新成人には「決断」という言葉を贈りました。今後、社会人として直面する大きな「決断」を迫られる場面では、勇気を持って決断し、実行に移してもらいたいと思います。そして決断を下す際に、皆さんを励まし背中を押してくれる仲間や友人、そして家族への感謝の思いを胸に、立派な大人へと成長してもらいたいと思います。皆さんの今後の活躍を期待します。

さて、今月7日は、大澤駅伝競走大会が行われます。駅伝人気が高まる中、第68回を迎え伝統ある大澤駅伝に参加する約190チームのランナーの激走に熱い声援をお願いします。また24・25日の両日、市役所周辺で「さのまるの日イベント」が開催されます。30周年を迎える「佐野らーめん会」をはじめ、多数のご当地グルメやキャラクターが集合します。皆さんのお越しをお待ちしています。

岡部正英



今回の表紙 「消防出初式」(市役所南側県道桐生岩舟線)平成30年1月14日撮影

消防団員約580人、車両43台による壮大な行進が行われました。

幼年消防クラブ、少年少女消防クラブが行進に華を添え、子どもたちは沿道の皆さんに「火の用心」と大きな声で呼びかけました。

火災が起こりやすい季節です。皆さんも火の用心を心がけましょう。

しずお
寺島 静男 さん
(田沼町)



○プロフィール
昭和32年生まれの60歳。平成6年に現在の田沼地区下町の自警団に入団し、平成21年からは、同団の団長を務める。

キラリ★
話題の「ひと」

防犯、防火、お祭りの
交通整理などに活躍中

北関東の名物、冬の空つ風。乾ききつた北西の季節風が吹き荒れる冬から春先は、火事が多発します。幸い町内を焼き尽くすような大火にはなっていないが、私の住んでいる町内でも、これまで何件かの火災が発生しています。

この火災が多く発生する冬から春にかけての夜間に、火災防止の夜回りをしてくれているのが自警団です。自警団は旧田沼・葛生地域に置かれている防犯・防火のための組織で、寺島さんは田沼地区の下町の自警団員として23年、そして7年前からは、団長として活躍をしています。

自警団の活動は、この火災防止の呼びかけだけではありません。3月になると、田沼地域に住んでいる人なら何となく心騒ぐ、初午祭の交通整理や車両規制、駐車場の案内なども行います。このほかにも、地区で行われる各種の祭りや稲荷神社の祭り、たぬまふるさと祭り、子ども神輿が行われるときにも、交通整理などを行っているそうです。また、町内の所々に置かれてい

る消火栓の点検、交通安全週間における安全啓発なども行っています。

現在、下町の自警団員は12人。寺島さんは「ほかの自警団でも、人手が不足しているところがあると聞いています。ぜひ、多くの人に入団してもらい、地域のため一緒に活動をしていただきたいです」と話します。

季節風の吹き荒れる時期です。皆さんのちよつとした心がけと協力で、財産や命を奪う火災を予防しましょう。

(市民記者 福田満)



下町の自警団の皆さんは、昨年の初午祭でも交通整理などで活躍しました。

便所の名称として、
チヨジョバとかコエダメなど
いろいろな方言が使われていた

昔から呼び名の多いものといえば、まず「便所」が挙げられます。今でも便所は(お)トイレといったり、お手洗いなどといいますが、年配者(女性)になると、御不浄などともいいます。

便所の近くには、昔から現在と同様に手洗所がありました。その手洗所を普通、手水場といいましたが、のちになると、この手水場が便所の意に変化してしまいました。「ちようずば」が訛って、チヨチヨバ、チヨジョバというようになりました。しかし、昭和20年頃になると、共通語の「ちようずば」も、チヨチヨバやチヨジョバもすっかり消えてしまいました。

昔、禅寺で僧堂の後ろに架け渡した洗面所を、後架といっていました。明治の人たちは、「どこへ行ったんだンベと思つたらコーカだツタンケー？」などといったものです。農家のほとんどの家が、屋内に便所がなく、夜中でも外便所を利用するという不便な生活をしていました。屋内にある便所をカミゴカ(カミゴカ)とか、カミオーカ(カミオカ)などといっていました。一段上にある便所ということで、後架に「上」がつき、それが変化したものです。

便所は、糞をためておくところということから、クソダメといたり、あるいは深く穴を掘つてそこにためることから、クソポとかコエダメなどともいいました。

※コエは糞尿の意

(市民記者 森下喜一)

